じり貧要求はダメですッ

見てください、この物価値上がり

三池主婦会が調べた、大牟田の物価値上がり実態

品目	47年	48年	49年	備考
米	1,620円	1,630円	2,145円	10kgで
うどん	20	22	55	1ワで
そーめん	20	22	55	〃
アジ	15	25	30	100g
サバ	8	18	25	〃
牛肉	120	180	180	〃
豚肉	80	90	100	〃
白菜	1.20	2	4	〃
豆腐	25	50	50	1個
大根	15	30	60	中1本
味噌	113	163	227	1kg
醤油	170	210	350	1升
油	350	430	720	〃
酒	890	990	1,180	〃1級
焼酎	380	460	600	〃

品目	47年	48年	49年	備考
歯磨	135円	170円	170円	1箱
洗剤	450	—	740	2.65kg
石けん	32	32	63	1個
定食	150	200	260	
カレー	100	150	220	1皿
ちゃんぽん	130	180	230	1パイ
うどん	100	150	220	〃
卵	130	220	290	10個
新聞	—	800	1,250	朝刊だけ
灯油	300	300	450	1カン
机	32,000	38,000	45,000	
ランドセル	6,000	7,500	9,000	
砂糖	130	165	300	1kg
プロパン	900	1,300	1,500	
授業料	1,720	2,000	2,080	公立高校
	6,000	6,900	7,400	私立高校

四～五万円要求では追いつけません

物価値上がりの実態

主婦会調べ

三池主婦会はかねて、物価値上がりの実態調査を行なってきた。その結果、昭和四十七年から同四十九年までの分が明らかになった。別表がそれであるが、今年にはいるとこのうえ値上がりしていて、たとえば年末まで五十円だったトーフが六十円……など。

主婦会役員では、「四万、五万の賃上げ要求では大幅などとはいえません。むしろじり貧要求ですよ。ほんとにみんな、もっとしっかりしなければ……」、歯ぎしりしている。

町の八百屋さんの店頭。何でも値上がり。「売りにくくてでけん」、とこぼす親父さん。

苦しい頸肩腕症候群

一つしかない命なのに

東京都の入沢泰子さんから——田中さんへ

〝第十二回三池にまなぶ会全国集会〟のとき、四山社宅五十一棟の田中マサ子さん（故田中工さん未亡人）宅に、二人の女の人が泊りました。ところがそのなかの一人——入沢泰子さん（電々公社勤務）は、お気の毒に頸肩腕症候群という職業病のため苦しむ、不幸な人だったのです。

集会が終りお帰りになると、さっそくお礼状がとどきましたが、それによりますと改めて職業病の恐ろしさを思わせられました。とりあえず、お手紙を紹介します。

三池にまなぶ会は、大成功に終りました。手厚く迎えて下さったご恩は、決して忘れません。私の一生の思い出に残る会になったのも、三池の方々のおかげでした。

私は五年前に公社に入って一年後、職業病にかかってからやっと私の一生の生き方が変りました。社青同に入ったのもその頃です。

身体に無理ができませんし、三池に行く三週間前までは、病休で休んでいました。

いまも半日勤務をしていますが、週四日間は病院で治療を受けているので、多くて週三日くらいの勤務しかできません。

そんな中で三池へ行く決意をしたのは、職場でいやがらせを受けたり、自分が強制配転をさせられたりして本当に苦しかったからです。

まなぶの仲間からも、「身体が思うように動かないのに三池に行くのは、おかしい」と批判されたりしてずい分悩みましたが、「だからこそ私は行って来るんだ」とがんばったら、沢山の人が支援してくれました。

CO中毒で苦しみながら、十年以上も闘ってきた宮島さんは本当に立派でした。まだまだ元気な私が訴えていけないはずわないし、これからも三池の人たちと一緒に闘っていきたいと思っています。

東京で一人暮らしをしていて、家庭の味をすっかり忘れていた私にとって、お宅でご馳走になったお料理は、田舎を思い出させてくれました。

（中略）東京青年文化センター編の〝人とし生きるために〟「たたかいの歌を」のカセットテープは聞いていただけたでしょうか。（来年のとき、田中さんへ贈られた）下手ですが、一生懸命に歌いました。

A面のセリフは、〝三池主婦会二〇年の歩み〟（労大出版）のなかの池田とみ子さんの手記をもとにしてつくったものです。ご意見など、聞かせてください。

本当に力強く、また暖く迎えて下さったことに感謝します。

四山指導部の皆様にも、よろしくお伝え願います。お風邪などひかないように、お元気で。

×

入沢さんのお住まいは「東京都練馬区向上四—二—八、泉荘二号室」で、全電通労組落合分会所属です。

入沢さんは、田中さんの手もとに、次の手記も残されています。

……

私の職場は電々公社です。その花形産業（人の表現）のなかで働くため、雑踏の中を四年前に地方から上京しました。

一年間で、私の人生は変ってしまいました。

というのは仕事をやるうちに肩がこり、首が曲がらなくなってしまったのです。

病院へ行くと、〝頸肩腕症候群〟と診断され、約半年間休職で休みました。

仲間の人たちの暖い励ましと、学習会があったからこそ、今日の私がある、といっても過言ではありません。学んでつかんだ資本主義の矛盾、社会主義への必然性が私の、ものを見る目を変えてくれました。

三池の方たちと交流して一番印象に残ったのは、あれだけきびしい闘いをつづけてきている人たちが見せてくれた、美しい笑顔でした。

それに、「人間として当たりまえのことが、闘ってしか勝ち取れないんです」と教えてくださったのは、ほかでもない主婦会の方でした。

電々公社は、使いものにならなくなった頸腕の人を、強制的に配置転換しています。

新しい職場は、慣れるのにとても神経を使いますし、理解してくれる人がいないので苦しいです。

苦しいから、私は三池にきました。

命は、一つしかないもの。ボロぞうきんのように扱われて、黙って泣き寝入りするわけにはいかないのです。

× × ×

安見台

まなぶの仲間と

主婦会向日葵　大月多美子

「いろいろとお世話になりました私たちも社会主義社会をめざして頑張ります」。

若い瞳を生き生きと輝かせながら、二晩の民泊を終えてまなぶの友は地域を後にじました。

三池から何かを学び取って行こう、何かを肌で感じ取って帰りたい、そう願って全国各地まり、大切な休暇をやりくりしながら学習に来られた仲間たちに私たちは果たして満足に応えてあげられただろうか。いいえ、かえって学ばなければならないことの方が多く、まだまだ不十分であった自分を今さらながら大変反省させられています。

「まなぶ友の会に加入して、今日からは私も仲間の一人なのだと思ったときのうれしかったことは、一生忘れることができません」と、そのときの感激を新たにして語る友。

「兄弟三人、まなぶで頑張っています。来年は兄貴が三池にくると思いますが、そのときはよろしく」といって帰られた友

そしてまた学習会、及び交流のときなどは、わずかの時間も惜しいとばかりに、真剣に取り組んでおられる姿を見ましたとき、何と心強く、頼もしいことだと思ったのは、私一人ではなかったろうと思います。

この若い力で、全国で精一杯頑張っておられるまなぶの仲間たちに負けないように、私たちも苦しさに負けず、明日のしあわせをつかむまでは頑張って行きたいと思います。

北から南から

▼考えたらおかしなこと

今年は婦人年だとのことで、私も一言いわせていただきます。どこの事務室でも入って気づくのは、たいていドアのそばに女子職員がずわっていること。隣りをみると、三十歳ぐらいの〝男の子〟。おかしな事なんですけど高卒の男子職員でも、十年もいる私なんぞより上席にずわる。その上来客の接待、コピーやき、お茶くみとみんな私たち女の仕事。「そんな世の中なんだよ」と思う男の人、一日かわってみませんか。

（神奈川県職労）

▼洗髪代百円ナリ

年明けに油揚と豆腐を買ったら、十円すつ値上がりしていた。「また値上げですか」と聞くと、「ええまた値上げです。でもまけは同じですよ」の返事。その夜、今年はじめての髪湯に行った。入浴代がなんと九十円にビックリ。目を料金表に移したら、「洗髪代二十円、髪染めた方は百円」とある。これには二度ビックリ。「このつぎに」と不足分は借り。でも正月そうそうあとあじの悪さ。たかが十円、二十円と思いなさんな。（全日自労「じかたび」）

× × ×